

助成活動実績報告書

企画名	竹枝「生きものの里づくり」プロジェクト 2011（竹枝小学校周辺の身近な生きもの調査）
団体名	竹枝を思う会・たけえだ水辺の楽校実行委員会

①活動の目的について

竹枝小学校周辺には、旭川、谷川、用水路、田んぼ、里山の自然がまとまって残っています。私達は、この恵まれた自然環境を体験学習・環境教育のフィールドとして活用し、「生きもの」の里として保全再生していくことを目指しています。このプロジェクトの目的は、小学校、地域、専門家が協働し、小学校周辺の「モニタリング調査」を継続して、自然や生きものデータを蓄積するとともに、環境教育や保全再生活動に活かしていくことです。

②内容について

- ・年間を通じ、小学校周辺をフィールドとして、「水辺の楽校」を開催。延べ、約 300 名が参加。
- ・行事ごとに「竹枝つ子通信」を発行して自然や生きもの情報を蓄積、発信した。
- ・従来行事参加者、関係者への配布に加えて、今年度より、地区内全世帯に回覧した。
- ・日本野鳥の会県支部の協力を得て、毎月第 2 水曜日に探鳥会を実施し竹枝小周辺の野鳥リストを作成した。
- ・11月3日に、小学校、地域住民、市民団体、研究者などと協働して、「旭川かいぼり調査」を開催した。市内各公民館、建部町各小学校、地域住民等に広く案内、地区内外から約 300 名が参加。
- ・3月3日に、年度のまとめとして、「ふるさとづくり発表会」を開催。（予定）

竹小児童、理大生、野鳥の会会員などが生きもの調査の成果を発表、それを受けて、「生きもの」づくりのワークショップ。 昨年度参加実績、約 80 名

※年度末に、活動報告書「ふるさとを伝えたい」を編集、地元住民、関係者に配布する（予定）。

③この活動によって達成された成果

- ・年間の活動を通じ、小学校、児童、地域住民と地域外の応援団（市民団体、研究者、学生など）との連携、交流が強化された。
- ・特に、日本野鳥の会岡山県支部の協力により、これまでなかった野鳥の基礎データが得られたことは大きな成果である。
- ・9月の台風12号による大洪水による旭川の自然や生きものへの影響について、11月に開催した「かいぼり調査」によって、今後の研究テーマや材料が提供された？
（詳細な内容は今後の活動報告書で）
- ・「ふるさとづくり発表会」の開催、報告書の配布などによって、地域の自然や生きもの価値を見直し、環境教育、環境保全活動に対する住民意識が高まった。
- ・小学校と地域協働による「生きもの」づくりの成果のひとつとして、竹枝に魅力を感じ、「竹枝に住みたい」「竹枝小学校に子どもを通わせたい」と移住を希望する家族が現れている。

④今後の計画・展望について

- ・今後とも、年間を通じた「調査・保全・活用」の取組みを継続していく。
- ・調査によって得られた知見を、小学校における環境教育、ESD や地域の環境保全活動に活かしていく。
- ・「生きもの」づくりにおいて、学校周辺を拠点としながらも、地区ごとに特徴的なサテライトを作り、地域ぐるみの理解と参加協力をさらに促していく。
- ・竹枝地域における最大の絶滅危惧種である子どもたちを増やし、地域の未来展望を開くためにも、子育て家族の移住促進に本格的に取り組みたい。